

## 第4学年3組 算数科学習指導案

令和5年5月25日(木) 第2時限 教室

1 単元 1けたでわるわり算の筆算(10時間完了)

2 単元目標

- (1) 除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解し、筆算で計算することができる。(知識及び技能)
- (2) 除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算の仕方を考えたり、説明したりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 既習の計算を生かして、進んで筆算をしようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元構想

(1) 児童の実態

本学級の児童は、「角とその大きさ」の学習で、チーム学習を効果的に活用し、さまざまな角度の作図を行うことができた。しかし、問題に対して考えようという態度は見られるが、どのように思考してよいか分からない児童も多い。チーム学習を生かして、児童全体の学習に対する満足感を高められるようにしていきたい。

(2) 単元についての考え

第3学年でわり算の意味と九九を一回用いる計算( $12 \div 3 = 4$ など)の仕方を学習している。本単元「1けたでわるわり算の筆算」の学習では、商を「たてる」、割る数と商を「かける」、割られる数の十の位から「ひく」、一の位を「おろす」などの筆算の仕方について理解し、この手順の意味やよさを考え、筆算ができるようになることをねらいとしている。本単元では、自分の力で解く姿を目指し、「個別最適化な学び」「協働的な学び」となる手だてを取り入れ、「対話的で深い学び」となるように学習を進めていく。

本単元では、まず、(2桁) $\div$ (1桁)の立式をし、具体物を用いて計算の仕方を考えた後、その計算の仕方をもとに(2桁) $\div$ (1桁)の筆算の仕方を考える。そこで、わり算の筆算の手順である、「たてる」「かける」「ひく」「おろす」や手かくし法を学ぶ。単元を通して必要になる考えのため、言葉を唱えたり、位を手で隠したりする活動を繰り返し行い、筆算の手順が定着するように指導する。その後、余りのある場合や位ごとに割り切れたり、商の一の位に0が立ったりする場合の問題を学習する。単元の後半では、(2桁) $\div$ (1桁)の筆算で学んだ手順や手かくし法などを基に、(3桁) $\div$ (1桁)の筆算の仕方を自分の力で考える。単元の最後では、簡単な(2桁) $\div$ (1桁)( $75 \div 3$ など)を暗算で計算する。単元を通して、筆算の仕方を言葉の式で説明できる思考ツールを用意する。このツールは、必要に応じて児童が選択できるように、4つの種類を用意する。(手だて①) また、個人で考える時間だけでなく、学習課題に対する他者の考えをともに学び合う時間を設けることで、新たな視点を獲得し、自分の考えをさらに深めることができると考え、チームで学習課題に迫る活動を取り入れる。(手だて②)

4 単元計画(10時間完了)

段階	児童の活動	手だて
出会う	・色紙72枚を3人で分けるときの1人分の枚数の求め方を考えよう(1)	①②
追究する	・(2桁) $\div$ (1桁)の筆算の仕方を考えよう(2~5) ・(3桁) $\div$ (1桁)の筆算の仕方を考えよう(6~8) (本時7/10)	①②
広げる	・(2桁) $\div$ (1桁)の暗算の仕方を考えよう(9) ・1桁で割るわり算の筆算の学習のまとめをしよう(10)	①②

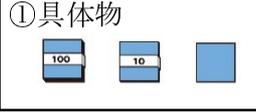
5 本時の指導 (7 / 10)

(1) 目標

(3桁) ÷ (1桁) で、商に空位がある場合の筆算の仕方を考え、説明することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

段階	児童の活動	教師の活動
つかむ(5)	<p>1 (3桁) ÷ (1桁) の筆算の仕方を確認する。</p> <p>・(2桁) ÷ (1桁) と同じように筆算で解くことができるよ。</p> <p>2 本時の学習課題を把握する。</p>	<p>・(3桁) ÷ (1桁) の筆算の手順を確認するため、商に空位のない筆算(834 ÷ 3)を用意する。</p> <p>・(3桁) でも(2桁) ÷ (1桁) と同じ手順で解けることを押さえる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">642 ÷ 6は筆算でどう計算するとよいか</div>	
ふかめる(33)	<p>3 642 ÷ 6の筆算をする。</p> <p style="text-align: right;"><b>【個の追求Ⅰ】</b></p> <p>・わり算の筆算の手順を基に解いてみると、まずは6 ÷ 6で1を立てる。</p> <p>・答えは107になったよ。</p> <p>4 どのように計算したか、チーム内で説明し合う。</p> <p style="text-align: right;"><b>【かかわり合いⅠ】</b></p> <p>・100の束は6つあるので、6つに分けることができます。</p> <p>・4の上に何を書いたらいいか迷ったよ。</p> <p>・〇〇さんみたいに100の束を使って説明できるかな。</p>	<p>・自分の考えをもった上でチーム学習に参加できるように、個人で問題を考える時間を十分に設ける。</p> <p>・チーム学習で困り感を共有できるよう、手が止まっている児童には、困っている点を尋ねる。</p> <p>・言葉の式で説明できるように、4種類の思考ツールを用意し、児童が選択できるようにする。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>①具体物</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>②手順カード</p> <p>①〇をたてて</p> <p>②〇に〇をかけて</p> <p>③〇から〇をひいて</p> <p>④〇をおろす</p> </div> </div>	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>③手順カード(虫食い)</p> <p>① たてて</p> <p>② かけて</p> <p>③ ひいて</p> <p>④ おろす</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>④手順カード(白紙)</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> </div> </div>	
	<p>5 学級全体で話し合う。</p> <p style="text-align: right;"><b>【かかわり合いⅡ】</b></p> <p>・筆算では、われないときは商に0を立てるので、この場合は0を立てることを忘れていました。</p> <p>・2の上に7を立てるのは合っているから、手かくし法を忘れていたかもね。</p> <p>6 適応問題を解く。</p> <p>・436 ÷ 4を筆算で解くためには、まず4 ÷ 4で1を立てて、次は手かくし法を使って、3の上は0だね。</p> <p>・言葉の式に当てはめて考えてみると、分かりやすいね。</p>	<p>◎「商が17になる〇〇さんの考えで、気付くことはあるかな」と問い、商に0が立つときの数の関係に気付くことができるようにする。</p> <p>・活動3で、商を17にしていた児童がいなければ、教科書の例を提示する。</p> <p>・児童の発言から、筆算の手順と商を百の位から順に立てていく、手かくし法のよさを確認できるようにする。</p> <p>・自分の力で問題を解くことができるように、手が止まっている児童には、思考ツールに当てはめて考えるよう促す。</p> <p>・問題が解けた児童には、どの思考ツールでも説明ができよう指示する。</p>
ふりかえる(7)	<p>5 本時の振り返りをする。【振り返り】</p> <p>・商に0を立てる理由を考え、チームの仲間に伝えることができました。</p> <p>・筆算を計算だけではなく、言葉の式でも説明してみると、考えを深めることができました。</p>	<p>・話し合った内容を踏まえて授業を振り返ることができるように、板書を見て授業全体を振り返る時間を設ける。</p> <p>・学習課題に立ち返り、課題に迫った振り返りを行っている児童を指名する。</p>

4 評価

(2桁) ÷ (1桁) の筆算の仕方から考えを深め、(3桁) ÷ (1桁) で商に空位のある筆算の仕方を考えることができたか。(活動3・4・5の様子、ノートの記事から)